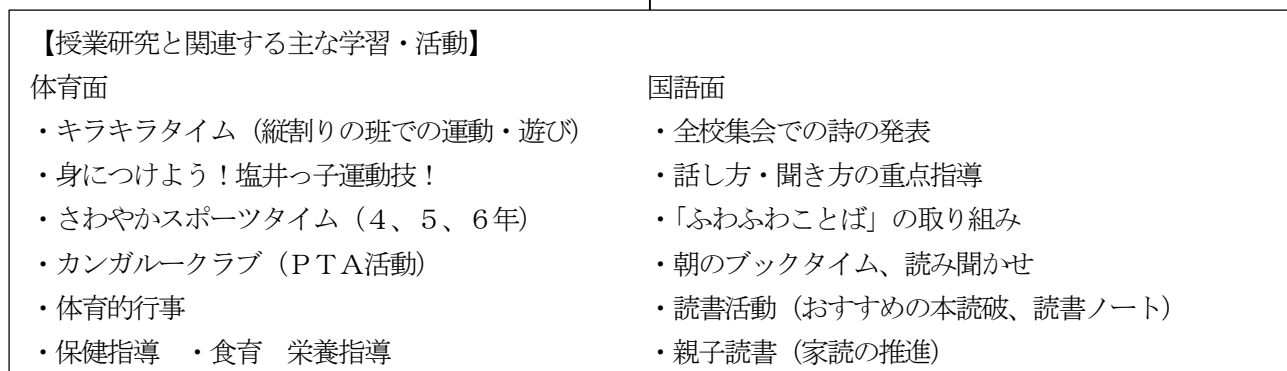
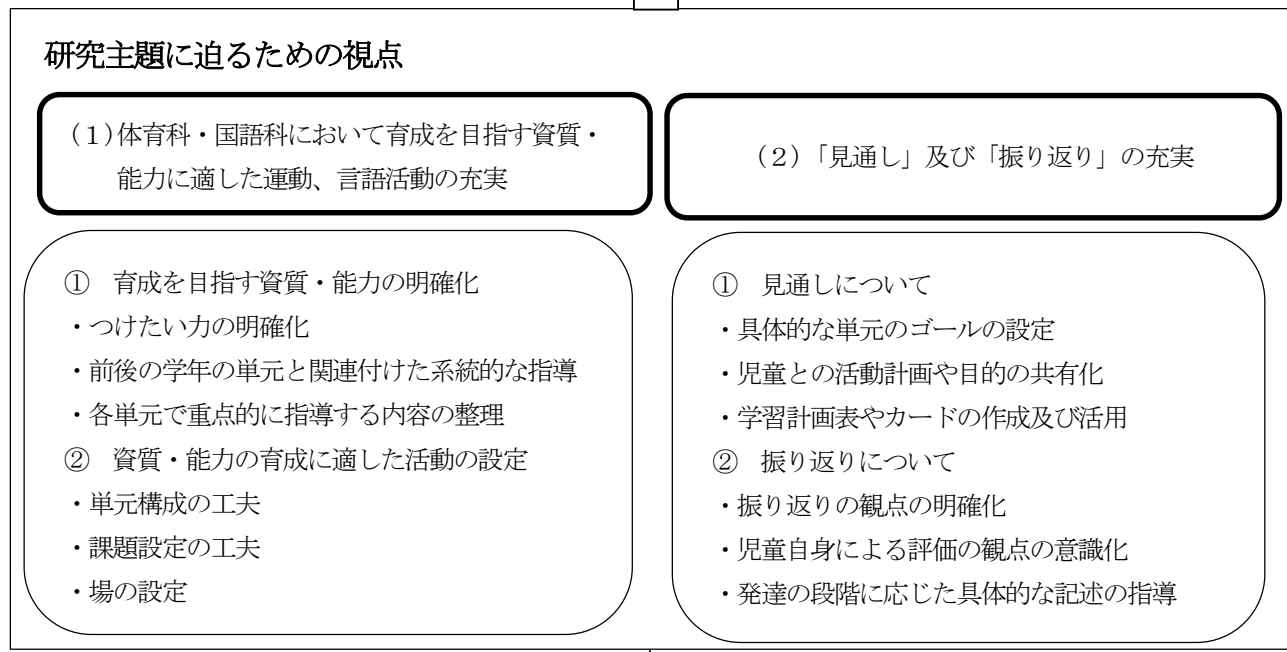
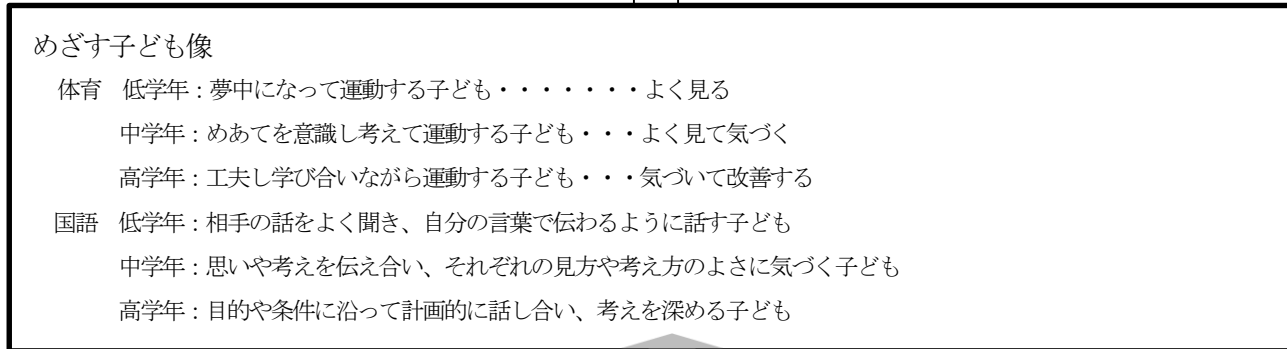
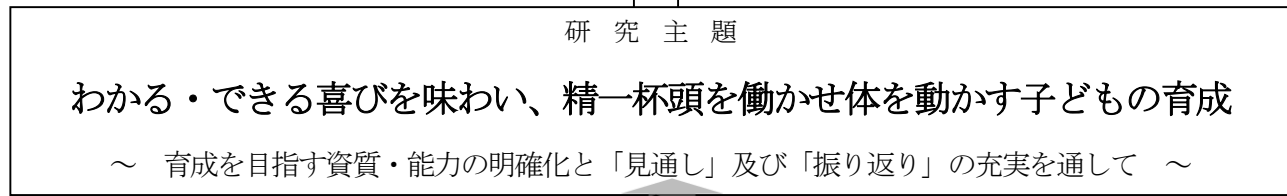
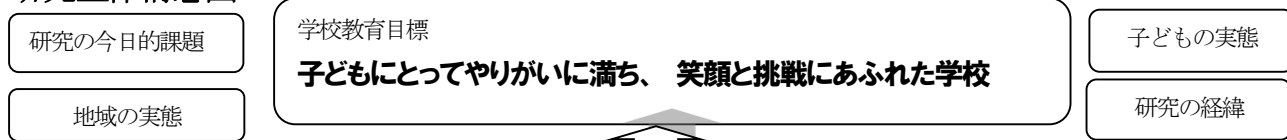


# 研究全体構想図



## 令和4年度 校内研修計画

### 1 研究主題

「わかる・できる喜びを味わい、精一杯頭を働かせ体を動かす子どもの育成」

～育成を目指す資質・能力の明確化と「見通し」及び「振り返り」の充実を通して～

### 2 研究の概要

#### (1) 主題設定の理由

##### ① 児童の実態より

本校は、長年体育の研究を継続しており、運動の特性に触れながら体を動かしたり、日常的に運動に親しみながら様々な運動技能を習得しようとしたりする児童が育ってきている。また、体力や運動技能の向上はもちろん、友達との関わりに重点をおいて進めてきたことにより、アドバイスや励ましの言葉がけが増えたりやる気につながったりして、学び合う姿勢や意欲は高まってきている。さらに他の教科や生活面でも、自分の目標に向かって努力し達成しようとする、前向きな姿勢を持つ児童が多い。但し、感想を述べたり気持ちを表現したりする場面で語彙が少なく同じような表現が続いてしまうことが多く見られた。

一方、国語では、学力検査（NRT）の結果を見ると、全体としては全国平均は越えているものの、算数の数値に比べて低く、学年によっては全国平均を下回ることもある。また、一昨年度の全国学力・学習状況調査（6年）および山形県学力等調査（5年）において「国語の勉強は好き」という数値が県平均よりも下回っており、学校全体として国語への意欲や学力がやや不足している傾向が見られる。

これらのことから、体育の研究で体力や運動技能の向上、集団として協働する態度の育成を継続しつつ、思考力や表現力の基礎となり、どの教科にも必要な国語の力を高めていく必要があると考えた。

##### ② 研究の今日的課題

新学習指導要領体育編では、心と体を一体とした指導の充実が引き継がれ、時数もこれまで同様に示された。また低学年からの体力の基礎作り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身につけることなどの一層の充実も求められている。国語編においても、育成すべき資質・能力の3つの柱が再整理、統一され、「課題の発見と解決に向けて主体的・対話的で深い学び」が学習意欲を高めるうえで効果的と意義付けている。「言語活動を通じた言葉による見方・考え方」「体育の見方・考え方」を働かせて資質・能力を育むことが大切と言える。

本校では、長年の研究の経緯の中で、県や文部科学省、市の指定校として研究を進め、体育を中核とした学校作りに取り組んできた。今年度の校内研究は、体育科に加え国語科において探究型学習に取り組み、山形県第六次教育振興計画の基本目標実現、米沢市教育振興基本計画における「がってしない子ども」を育成するための実践を推進していきたい。

##### ③ 研究の経緯

- ・～平成18年度・・・子どもが生き生きと学ぶ魅力ある教材づくり
- ・平成19年度・・・どの子も運動の特性にふれさせ、楽しませる（全国学校体育研究文部科学大臣賞）
- ・平成20年度・・・人とのかかわりを大切にする
- ・平成21年度・・・「体づくり」「ネット型ボールゲーム」（現行指導要領実施を受けて）
- ・平成22年度・・・「ネット型ボールゲーム」の系統性検証 「ゴール型ボールゲーム」
- ・平成23年度～平成25年度・・・「ゴール型ボールゲーム」（バスケットボール）の系統性検証
- ・平成26年度～平成28年度・・・「ゴール型ボールゲーム」（ハンドボール）
- ・平成29～令和元年度・・・「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」見る目を育てる授業づくり
- ・令和2年度・・・体育「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」  
国語 説明的な文章を中心とした授業
- ・令和3年、4年度・・・体育科・国語科において育成を目指す資質・能力に適した運動、言語活動の充実

#### ④ 教育目標の具現化に向けて

本校では学校教育目標「子どもにとってやりがいに満ち、笑顔と挑戦にあふれた学校」を受け、めざす子どもの姿として、

- 学ぶ楽しさを感じ、精一杯考え、表現する子ども [学力]
- 挑戦する心とへこたれない勁さを持つ子ども [自鍛力]
- 自他の命や生き方・考え方を大切にする子ども [共感力]
- 様々な体験や読書を通して感性を磨き地域を愛する子ども [感性]

を掲げている。このうち、特に〔学力〕についてのめざす子どもの姿に基づいて「わかる・できる喜びを味わう」「精一杯」などをキーワードとして研究主題を設定した。

「わかる・できる喜びを味わう」とは、運動や学ぶ楽しさを感じながら、「わかる・できる」ようになることである。また、「わかる・できる」ようになればその教科がますます好きになり、楽しさを感じて次への意欲につながっていく。「精一杯」取り組むとは、単元や本時の課題を把握し自分で考える（技に挑戦する）、仲間と対話しながら自分の考えを広げたり深めたりする（アドバイスを参考に技に取り組む）、ねばり強く最後まで考える（工夫しながら何度も技に挑戦する）、自分の考えを自分の言葉で表現する（技を発表したり、ポイントを述べたりする）、活動を振り返り自分の伸びや変容が自覚できる、ということである。

今まで積み上げてきた体育の研究に加え昨年度に引き続き国語科に取り組むことで、体力や運動技能の向上、国語の学力の向上のみならず、あらゆる活動で意欲や集中力、学び合う姿勢、協力し合う態度などが高まり、「確かな学力」はもとより「自鍛力」「共感力」豊かな「感性」が身に付くであろう。これらのことを踏まえ、めざす子ども像の育成を通して、教育目標の具現化を図っていきたい。

### (2)今年度の研究の方向性

#### ① めざす子どもの姿

体育 低学年：夢中になって運動する子ども・・・よく見る  
中学年：めあてを意識し考えて運動する子ども・・・よく見て気づく  
高学年：工夫し学び合いながら運動する子ども・・・気づいて改善する

国語 低学年：相手の話をよく聞き、自分の言葉で伝わるように話す子ども  
中学年：思いや考えを伝え合い、それぞれの見方や考え方のよさに気づく子ども  
高学年：目的や条件に沿って計画的に話し合い、考えを深める子ども

#### ② 研究主題に迫るための視点

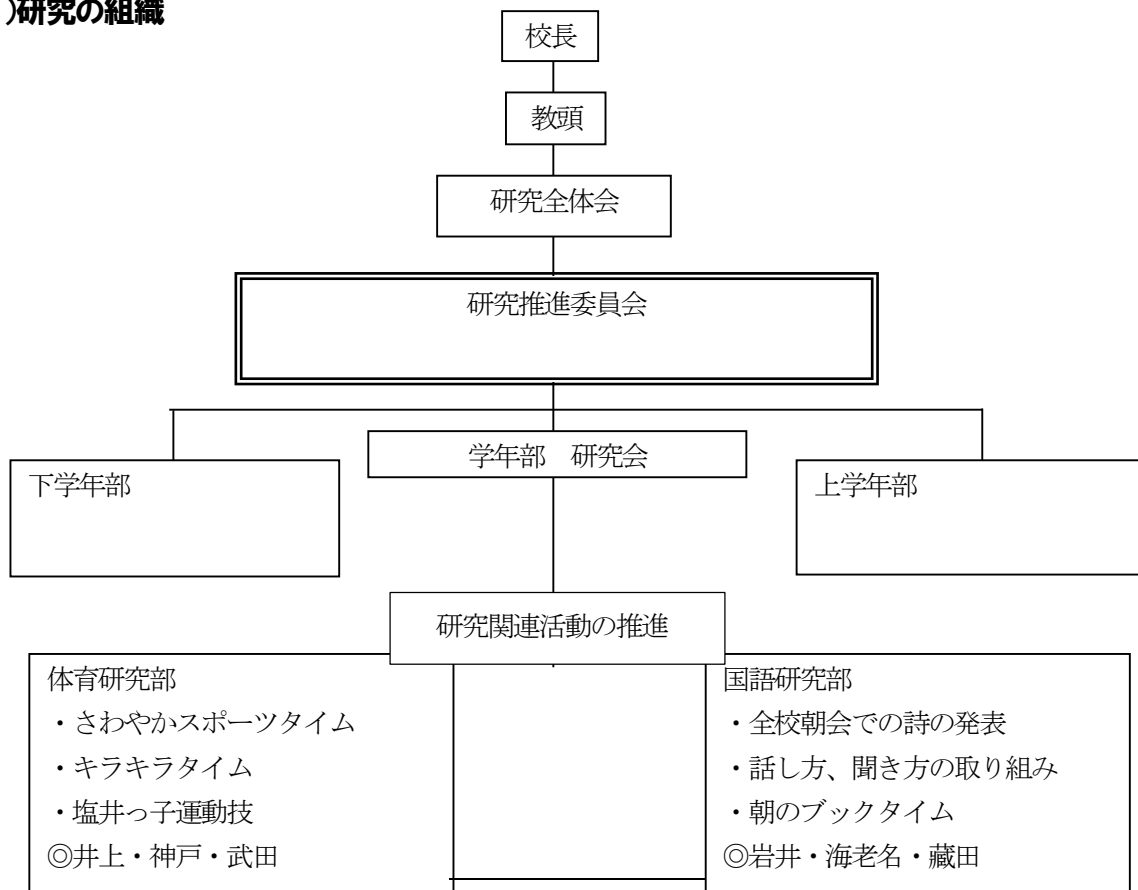
(1) 体育科・国語科において育成を目指す資質・能力に適した運動、言語活動の充実

- ① 育成を目指す資質・能力の明確化
  - ・つけたい力の明確化
  - ・前後の学年の単元と関連付けた系統的な指導
  - ・各単元で重点的に指導する内容の整理
- ② 資質・能力の育成に適した活動の設定
  - ・単元構成の工夫
  - ・課題設定の工夫
  - ・場の設定

(2) 「見通し」及び「振り返り」の充実

- ① 見通しについて
  - ・具体的な単元のゴールの設定
  - ・児童との活動計画や目的の共有化
  - ・学習計画表やカードの作成及び活用
- ③ 振り返りのさせ方
  - ・振り返りの観点の明確化
  - ・児童自身による評価の観念の意識化
  - ・発達の段階に応じた具体的な記述の指導

### (3)研究の組織



### 3 年間計画



月	研究全体会	推進委員会	研究部会
4	4 研究概要 1 8 指導案形式提案・ミニ研修	4 組織・進め方 1 2 研修計画	
5			3 0 事前研 I
6	1 0 全体事前研 I 2 2 授業研 I (3年・6年)		
7		8 授業研 I を受けて	
8	2 6 全体事前研 II		2 3 事前研 II
9	7 授業研 II (1年・5年)	2 2 授業研 II を受けて	3 0 事前研 III
1 0	1 2 全体事前研 III 2 5 授業研 III (2年・4年)		
1 1		2 5 研究紀要について	
1 2	1 2 今年度のまとめ		
1			
2			
3	1 3 来年度の方向性	1 来年度に向けて	